

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/26】

男子1回戦

高知県選抜 8

1	—	3
2	—	1
1	—	1
4	—	1
PSO		

6 東京クラブ

審判： 御崎 智徳
太田 一誠

高知県選抜	20	SH数	16	東京クラブ
	3	速攻数	8	
	7	ST・SB	10	
	8	SH・P誘発アシスト	3	
	50%	GK阻止率	38%	
	7	EX反則数	1	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

来夏の高知インターハイでどこまで戦えるかを占う意味で、高知にとっては重要な初戦。対する東京は毎回上位進出している強豪だが、今回はやや力的に厳しいチームということで接戦が予想された。

1P

ピリオド中盤まで一進一退の攻防が続いたが、高知の攻撃場面でトップ位置の対応に穴が見え、東京はマイボールからその間隙を縫って速攻を繰り出す展開で2連続得点してペースをつかんだ。東京の攻撃は前線に2～3名というスタイルで相手カウンターを常に意識していたため、攻撃がつながらなくても高知の速攻を防ぐことでゲームの主導権を取った。高知は、攻撃時になかなか前に入り込めず、シュートも正確性を欠き、攻撃時のカバーリングの甘さが目立った第1ピリオドであった。

2P

開始早々、センターボールを取ったローリーを起点として素早くドライブ攻撃を仕掛けて、北岡が決めて2点目を奪うと、リズムが出てきた形になった。高知は東京の攻撃パターンがつかめてきたようで、前線まで繰り出してくるのが3人と後ろからの攻め上がりが少ないと感じ取って、徐々にディフェンスの陣形を整え、チャンスをつかめるようになってきた。対する東京は、人数をかけない攻撃ではなかなか展開できず、シュート機会も大幅に減少したが、同点に追いつかれた直後に宮腰のミドルシュートでリードを奪い返して前半を折り返した(高知3-4東京)。

3P

双方の水球パターンが理解できたことから、決定的な場面がほとんど作れず、長いラリーが続いたが、東京が相手シュートミスをついて澤原の6mシュートでリードを広げた。対する高知も、東京のシュートミスからミドルレンジからの岡村のシュートで点差を詰めてきた。その後、東京側に退水攻撃のチャンスが生まれ、タイムアウトを取って勝負に出たものの成功せず、高知4-5東京という展開で勝負は最終ピリオドへ。

4P

ここでもセンターボールを取ったローリーから素早く前にボールを繰り出し、そこで相手ペナルティ反則を得て高知が5-5の同点に追いついた。こうなると高知側に勢いが生まれ、直後にも相手ボールをダッシュしてローリーが前線にまで運び、そこを岡村が決めてとうとう逆転。さらに、攻めあぐねた東京がオーバータイムとなって、そこから全員で泳いで最後はローリーが決めて突き放した。東京も高知のシュートミスに乗じて懸命に攻めてペナルティを得て1点差に詰めるが、その直後に高知・川島に決められてしまい万事休す。高知8-6東京という結果となり、高知の強化が高まってきていることを印象付けた一戦となった。

【プレー分析から】

シュート数に大きな差はなかったが、GKのセーブ力が若干高知が上回ったことが接戦を制する結果となった。特に退水攻撃機会が圧倒的に多かった東京の攻撃を辛うじて防いだことが大きく、最後になって高知を勢いづかせる形となった。また、序盤は東京の速攻が何回も繰り出されていたが、後半は急減。試合ペースが高知に傾いた大きな要因でもあった。東京側は相手ボールを奪取した後、前線の2人は泳いで攻め上がるものの、抜けている後方メンバーは相手カウンターを警戒する形で中盤で止まってしまい、前線で人数をかけた攻撃に至らなかったことが高知側にも有利に展開させてしまった形となった。